



岩手医科大学総合移転整備計画附属病院移転事業 附属病院新築工事起工式

〔3月13日(月)午前10時から、矢巾キャンパス附属病院移転用地敷地内において附属病院新築工事起工式が執り行われ、小川理事長をはじめとした本学関係者や岩手県、矢巾町、工事関係者等85名が出席し、工事の無事を祈願しました。〕

- 特集——附属病院新築工事の概要について
- トピックス——平成28年度 最終講義が行われました
平成28年度 卒業式が行われました
- フリーページ——すこやかスポット医学講座No.76
「家系図を活用してみましょう」

附属病院新築工事の概要について

企画部 総合移転計画事務室

平成 31 年 9 月の開院に向け、現在計画を進めている附属病院移転事業につきまして、いよいよ本年 4 月より矢巾新附属病院の新築工事が本格着工することから、今回はその計画概要についてご紹介いたします。

■ 附属病院移転事業 / 全体計画

最先端の医療に対応した教育や診療を提供していくため、矢巾地区には高度治療・入院機能を持つ 1,000 床の特定機能病院を新築整備するとともに、内丸地区には外来機能を中心とした内丸メディカルセンター（仮称）を設置します。

内丸メディカルセンター（仮称）は、当面は既存施設を利用して現状と同等の外来診療を継続するとともに、特殊な検査や入院・治療が必要な場合には矢巾の新附属病院にて診療を行う体制とし、内丸（外来機能中心）と矢巾（入院・治療機能中心）の 2 つの病院で、機能分化と相互連携による相乗効果を図ります。

矢巾新附属病院

- 病床数：1,000 床
- 特定機能病院
- 入院・治療を中心とした病院機能
- 小児、周産期、救急部門の機能強化
- 開院予定：平成 31 年 9 月

内丸メディカルセンター（仮称）

- 病床数：50 床
- 高度外来機能病院
- 日帰り又は短期入院での迅速な検査・診断体制を構築
- 盛岡市や関係医師会と連携した 1 次 2 次救急体制を構築
- 開院予定：平成 31 年 9 月（当面は既存施設を利用）

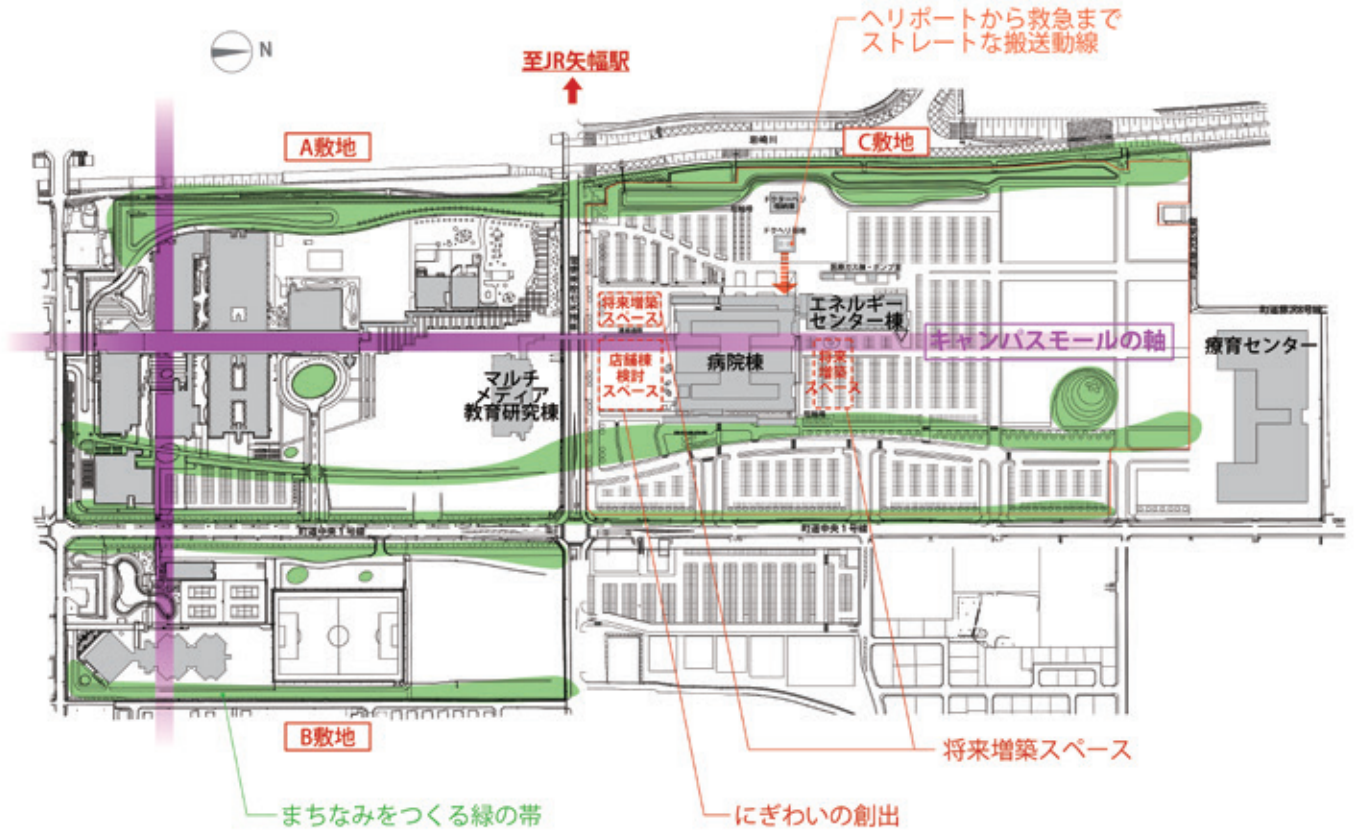


北東より眺めた新附属病院全景イメージ

配置計画

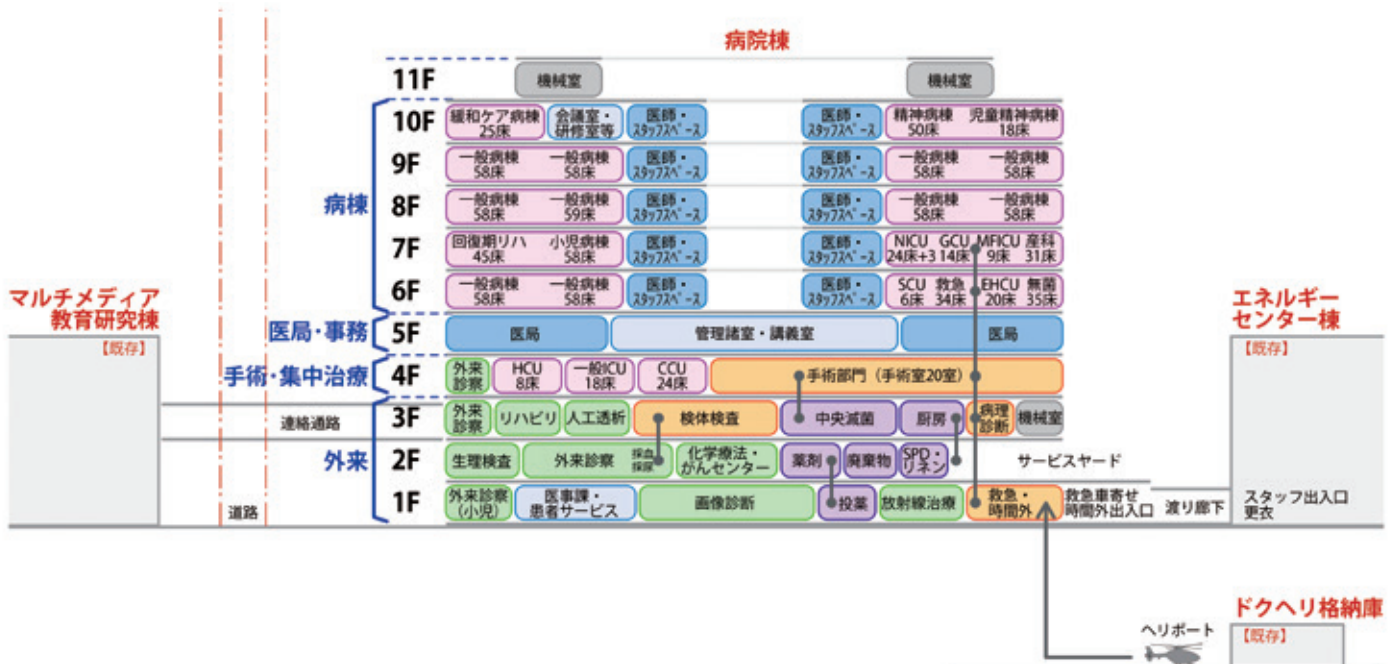
A、B、C敷地をキャンパスとして一体的にデザインしました

- ・ A、B敷地から発する3本の緑の帯を延伸し、キャンパスモールの軸を受け止める位置に病院棟を配置します。
- ・ A敷地、B敷地のデザインコードを継承して、施設群として統一感ある「医大デザイン」によるまちなみを創出します。
- ・ ヘリポートから最短距離で患者搬送できる機能的、合理的な動線を可能にする配置関係としています。



断面構成

部門間の連携を重視した機能的な配置





1階 吹抜ラウンジイメージ (P5平面図①)



1階 吹抜ホールからホスピタルモールを望むイメージ (P5平面図②)



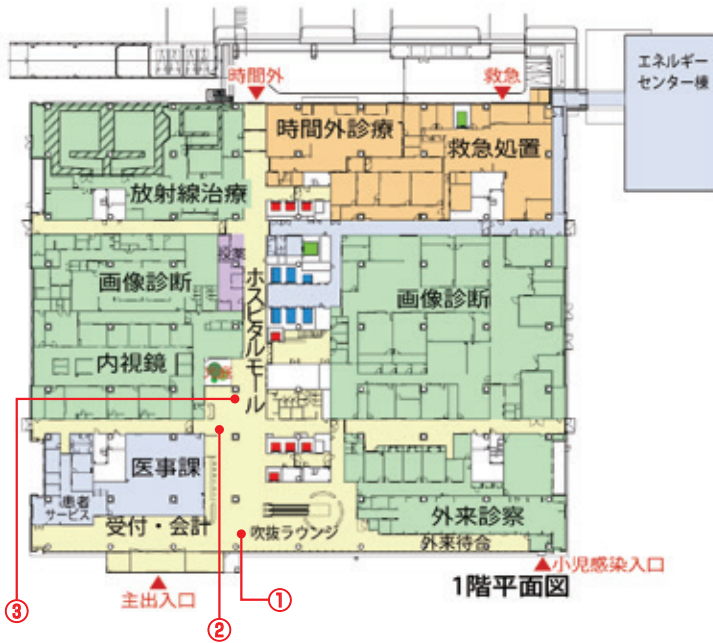
1階 光庭イメージ (P5平面図③)



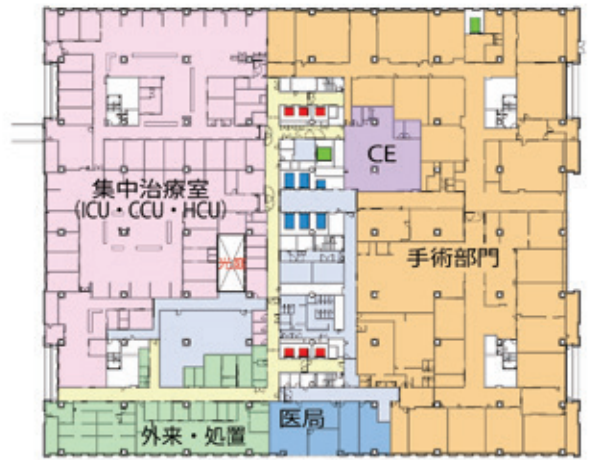
2階 外来受付イメージ (P5平面図④)



2階 外来待合イメージ (P5平面図⑤)



1階平面図



4階平面図



2階平面図



5階平面図



3階平面図

明るく、誰にでもわかりやすい外来体制

- 外来診察室は、フリーアドレス制（特殊診療科を除く）を導入し、コンパクトでフレキシブルな外来として、患者さんやスタッフの移動距離を短くするよう配慮しました。
- 外来には吹抜けラウンジと光庭を設け、明るさと開放感のある外来待合としました。
- 吹抜けラウンジと光庭をつなぐホスピタルモールを軸に外来の諸室を配置し、動線を明快にすることで、スムーズな患者誘導を目指しました。

高度医療提供体制の効率化と医療の進化を見据えた施設計画

- 4階を急性期医療フロアと位置づけ、高度治療部門である手術部や集中治療室（ICU・CCU・HCU）を集約しました。また、高度救命救急センター（1F）、手術部・集中治療室（4F）医局（5F）、救急病棟（6F）、NICU・MFICU（7F）を救急搬送用エレベーターで接続し、患者さんの負担軽減とスタッフの業務の効率化を図りました。
- 構造壁を設けず、改修しやすい設備システムを採用することで、将来の医療の進化に柔軟に対応できる設計としました。



4床室イメージ (P7平面図⑥)



一般病棟廊下イメージ (P7平面図⑦)



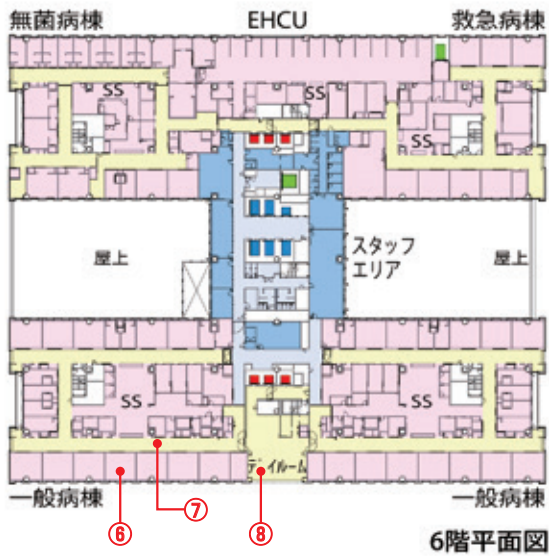
一般病棟ダイニングイメージ (P7平面図⑧)



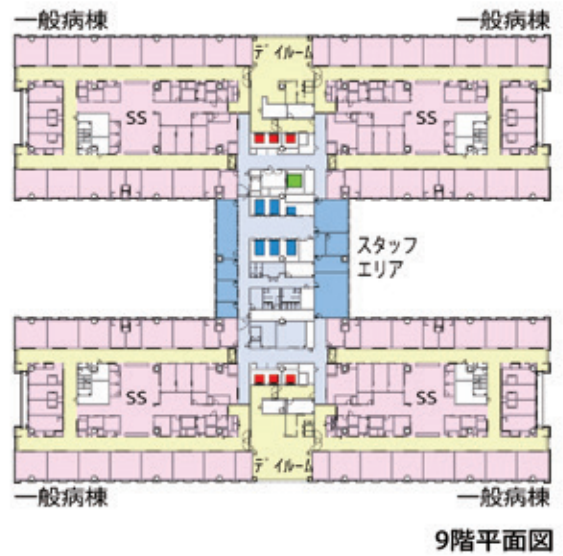
小児病棟イメージ (P7平面図⑨)



緩和ケアダイニングイメージ (P7平面図⑩)



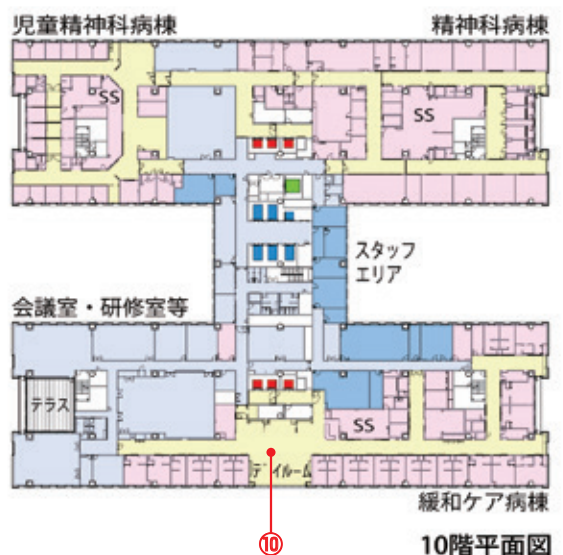
6階平面図



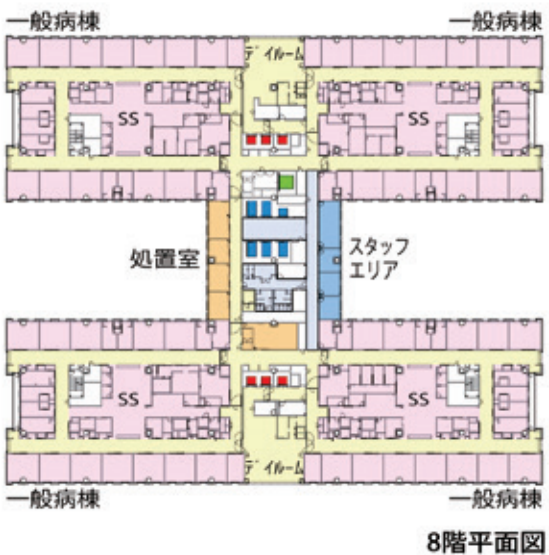
9階平面図



7階平面図



10階平面図



8階平面図

「医者は患者のそばに」を実現する病棟計画

- スタッフエリアを中心として、1フロアに4病棟を配置し「医者は患者のそばに」を実現する病棟構成としました。
- 病棟中央のスタッフステーション(SS)から3方向に病室を見渡せる形状とし、患者さんとスタッフの距離を縮める配置とすることで、高度医療を提供する超急性期病棟にふさわしい機能的な病棟計画としました。

より高度な医療を提供するための病室計画

- 感染対策への配慮やベッド回りの治療空間を広く確保するため、病室内には水回りを設けず、病室外側の廊下に患者さん用の洗面やWCを設置しました。また、ベッド回りに柱型が出ない構造計画とすることで、全てのベッドで十分なスペースが確保される病室計画としました。

計画概要

用途地域	第一種住居地域
敷地面積	158,838.30㎡
延べ面積	病院本体 約 86,000㎡ その他（連絡通路・駐輪場等）約 1,400㎡
最高高さ	50.80m
階数	地上11階、地下階なし
病床数	1000床
構造	病院棟 — シミズ NewRCST 構法 （柱：RCST 造、梁：S 造）、免震構造 連絡通路棟 — S 造、耐震構造 医ガス棟 — RC 造、耐震構造 ポンプ室 — RC 造、耐震構造
設計監理	日建設計・清水建設 設計監理共同企業体
施工	建築 — 清水建設・宮城建設共同企業体 機械設備 — 朝日工業社・富士水工業共同企業体 電気設備 — ユアテック・興和電設・岩館電気共同企業体
工事期間	2017年3月～2019年6月



2階吹抜ラウンジイメージ

【お知らせ】

3月6日（月）、創立60周年記念館10階会議室において、岩手医科大学附属病院新築工事 工事請負契約締結式が開催されました。式では、小川理事長が契約書に押印後、建築、機械設備、電気設備を担当する各施工業者（上記記載）に契約書が手渡されました。

小川理事長から「創立120周年の節目の年に、総合移転整備計画の最終段階となる附属病院新築工事がスタートする。これから約2年にわたる工事を安全第一で進めて頂き、本学の更なる発展へと繋げていきたい」と挨拶がありました。



■ おわりに

今後は、平成31年9月の矢巾新附属病院及び内丸メディカルセンターの開院に向け、より詳細な計画図面の打ち合わせを行うとともに、内丸と矢巾のスタッフ配置や機器の選定、引越し計画の具体化など、運用面の詳細検討を進めていく必要がありますので、引き続き、教職員・関係者の皆様からのご支援とご協力をお願い致します。

岩手医科大学附属病院移転事業 住民説明会が開催されました

2月27日(月)、矢巾キャンパス大堀記念講堂において、平成31年9月開院に向けて現在進めている附属病院移転事業について、住民説明会が開催されました。

当日は、矢巾町関係者や地域住民、関連企業、教職員など約430名が参加しました。説明会では、小川理事長から、本年4月に矢巾新附属病院の新築工事が本格着工することから、その計画概要について説明がありました(詳細は今号の特集記事に掲載)。

参加者からは、新附属病院が出来ることによる雇用の創出や駐車場の確保、誘致予定のホテル規模や店舗スペースへの地元企業の参入など街づくりを含めた活発な意見が出され、移転事業への関心の高さが伺われました。

説明会の終わりに、参加頂いた高橋矢巾町長から、矢巾町の今後の展望と本学への激励の言葉が述べられ、会場は大きな拍手に包まれました。



移転事業の概要を説明する小川理事長



大勢の参加者で埋め尽くされた矢巾キャンパス大堀記念講堂

医療専門学校でテーブルマナー教室が行われました

3月2日(木)、盛岡グランドホテル「瑞雲の間」において、テーブルマナー教室が行われました。これは、医療専門学校歯科衛生学科1年生が一般教養を養うことを目的に行われているもので、今回は33名の学生が参加しました。

教室では、盛岡グランドホテルの職員が講師となり、西洋料理のテーブルマナーについて、椅子の座り方、ナプキンの使い方から始まり、実際にフルコース

を食べながらフォークやナイフの使い方、食事中にしてはいけない事などを学びました。

慣れない環境に学生達は緊張した面持ちでしたが、楽しく食べることもマナーの一つであることを学び、徐々に緊張がほぐれ、お肉料理やデザートがサービスされる頃には会話を楽しみながら食事が出来るようになりました。



平成28年度 最終講義が行われました

3月31日付をもって定年退職された医学部・歯学部教授の最終講義が、3月3日（金）歯学部4階講堂で行われました。講義には本学教職員をはじめ、在学生や卒業生など多数の関係者が聴講し、各教授によるスライドや在職中のエピソードなどを交えた熱心な講義に聴講者は名残惜しそうに耳を傾けました。講義終了後には、各教授に職員や学生等から花束が贈呈され、惜しみない拍手が送られました。



日本の片隅から
病理学講座病態解析学分野 武田 泰典



岩手医科大学歯学部口腔外科学分野のこれまでとこれから
口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野 杉山 芳樹



これからの小児歯科
口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野 田中 光郎



岩手に高エネルギーを、そして世界へ
高エネルギー医学研究部門 世良 耕一郎



生体バランスとイオンチャネル調節
生理学講座統合生理学分野 久保川 学



呼吸器疾患の原因と病態の解明を求めて
内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野 山内 広平



小さな血球 血小板に魅せられて
内科学講座血液腫瘍内科分野 石田 陽治



心臓血管外科に魅せられて
—心臓血管外科医としての歩み—
心臓血管外科学講座 岡林 均



サーファクタント補充療法の成功がもたらしたその後の進歩
小児科学講座 千田 勝一

薬学部企業研究セミナーが行われました

3月4日（土）、矢巾キャンパス多目的ラウンジにおいて、薬学部学生を対象とした学内企業研究セミナーが行われました。本格的な就職活動時期を迎える薬学生への就職支援の最大イベントとして、官公庁・医薬品メーカー・ドラッグストア・医療機関など、全109事業所の人事採用担当者を招き、会社概要や採用情報を提供していただきました。また、本学卒業生も担当者として50名近く来校し、先輩の生の声を聞く貴重な機会となりました。



第2回岩手医科大学跡地活用検討会議が開催されました

3月8日(水)、創立60周年記念館10階会議室において、第2回岩手医科大学跡地活用検討会議が行われました。本会議は、矢巾町への本学附属病院移転に当たり、将来的な内丸地区の跡地活用を協議することを目的として、岩手県、盛岡商工会議所、盛岡市、本学の4者で構成された会議となります。

第2回となる同会議では、今年度の活動報告や昨年10月に開催された跡地活用検討懇話会(学識経験者や地元企業・町内会等の有識者で構成)で取りまとめられた基本コンセプトの提案内容を確認した上で、平成29年度は、より具体的なコンセプトの検討を行うとともに、他都市の事例等も参考としながら、施設を含めた具体施策の検討も進めていくこととして協議が行われました。

小川理事長からは、「盛岡市の将来を見据えた計画として本学跡地活用を積極的に進めていくとともに、少子高齢化が進む中、医療が身近にある街として商業や住居など各種機能が一体となったエリアを形成していくことが望ましいのではないか」との意見が述べられました。



小川理事長



千葉岩手県副知事



谷藤盛岡市長



谷村盛岡商工会議所会頭

平成28年度卒業式が行われました

平成28年度岩手医科大学・岩手看護短期大学合同卒業式は、3月10日(金)岩手県民会館大ホールにおいて厳かに挙行され、本法人役員や教職員、多数のご父母が出席されました。今年度の岩手医科大学卒業生は、大学院医学研究科博士課程7名、医学研究科修士課程2名、歯学研究科博士課程14名、薬学研究科博士課程1名、医学部118名、歯学部47名、薬学部109名、本法人に経営移管後初の卒業式となる岩手看護短期大学は、看護学科66名、地域看護学専攻21名、助産学専攻15名でした。

また、岩手医科大学医療専門学校の卒業式は、3月8日(水)歯学部4階講堂で行われ、歯科技工学科16名、歯科衛生学科35名の卒業生を送り出しました。



岩手医科大学・岩手看護短期大学



岩手医科大学医療専門学校



内科学講座消化器内科肝臓分野 黒田 英克 講師が 画論 The Best Image 2016で超音波腹部部門最優秀賞を受賞しました

この度、画論 The Best Image 2016（平成28年12月18日、東京国際フォーラム）において「超音波腹部部門最優秀賞」を受賞しました。画論は、画像診断技術の発展と医療貢献を目的として1993年に設立された学術イベントで、診断・治療に必要な画像のクオリティ、撮影・処理技術の工夫、臨床的価値や討論など総合的に審査が行われます。演題は「Budd-Chiari症候群」で、超音波装置に搭載されたハイエンドの映像化手法を駆使し、複雑な肝血流動態変化、肝組織性状変化を非侵襲的、経時的に観察し、詳細な病態解析を行った点が評価されました。受賞にあたり御指導、御協力いただいた皆様方に深謝申し上げます。

（文責：黒田 英克）

※2月15日（水）、祖父江学長に受賞報告を行いました。



（左から）滝川教授、黒田講師、祖父江学長

理事会報告（1月定例－1月30日開催）

1. 名誉教授の称号授与について

千田 勝一（小児科学講座教授）
久保川 学（生理学講座統合生理学分野教授）
杉山 芳樹（口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野教授）
武田 泰典（病理学講座病態解析学分野教授）
（称号授与年月日 平成29年4月1日付）

2. 役職者の人事について

副学長（歯学部改革担当） 三浦 廣行（再任）
歯学部長 三浦 廣行（再任）
（任期 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

3. 教員の人事について

医学部 皮膚科学講座 教授
天野 博雄（現 群馬大学大学院医学系研究科皮膚科学 講師）
（発令年月日 割愛の状況により決定）

医学部 小児科学講座 教授
小山 耕太郎（現 同講座 講座内教授）
（発令年月日 平成29年4月1日付）
医学部 内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野 教授
前門戸 任（現宮城県立がんセンター呼吸器科医療部長）
（発令年月日 割愛の状況により決定）
統合基礎講座 医療工学講座 特任教授
武本 真治（前東京歯科大学歯科理工学講座 講師）
（発令年月日 平成29年3月1日付）
医学部 臨床検査医学講座 准教授
田代 敦（前 同講座 特任准教授）
（発令年月日 平成29年2月1日付）

企画募集 ～ 創立120周年記念イベント「健康フェス2017」～

創立120周年記念事業の一環として、本年で3回目を迎える記念イベント「健康フェス2017」を、平成29年9月9日（土）に開催することといたしました。この記念イベントは健康をテーマに、本学が有する「医の力」、「知の力」を積極的に発信し、地域との繋がりを深めるとともに、大学ブランドの強化と更なる支援の拡大を図る全学的イベントと位置付けております。昨年、一昨年とご来場された方々からいただいた、貴重なご意見をブラッシュアップするとともに、学内からも広く企画を募集し、より充実したイベントを開催できるよう準備を進めてまいります。創立120周年という節目の年を盛り上げるべく、本年も教職員並びに関係各位の一層のご支援、ご協力の程を宜しくお願いいたします。

■ **開催日程** 平成29年9月9日（土）
9：30～16：30

■ **会場** 矢巾キャンパス

■ **メインテーマ** 「いきいき 元気 健康家族」

■ **募集締切** 平成29年5月31日（水）

■ **選考方法** 創立120周年記念事業小委員会にて検討

■ **お問合せ** メールまたは電話にてお寄せください

創立120周年記念事業事務局（内線7022）

E-mail : anniv@j.iwate-med.ac.jp

interview 挑む人。

ひろり
木村 妃炉里さん

薬学部3年

～ 矢巾町民劇場 第21回公演に出演 ～



2月11日、12日の2日間に渡り、矢巾町田園ホールにて矢巾町民劇場第21回公演「医志～つなぐ道～」が開催されました。本公演は、本学の創立120周年を記念して、本学の前身である岩手医学校を舞台に、誠の医師を目指して学ぶ青年の成長を描いた物語でした。薬学教育（標準模擬患者養成）へのご協力に始まる矢巾町民劇場と本学とのご縁で、演出担当の佐々木絵梨子氏を中心に数年前から構想を練って頂き、今回の開催に至りました。

少年の突然の死を前に無力感に苛まれる主人公の医学生を叱咤激励する入院患者役を見事に演じた、薬学部3年生の木村妃炉里さんにお話を伺いました。

(取材日：2月20日)

— 初参加ですよ？出演のきっかけは何ですか？

劇団員としても活躍されていた構造生物薬学講座の関 安孝 准教授（現：高知大学 医学部生体分子構造学講座 教授）が開いてくださった演劇コミュニケーション（自由講義）で、劇団の演出担当の佐々木さんと知り合い、関先生のご紹介で入団させていただきました。実は、高校でも3年間演劇に携わっていました。

— 本学の学生として今回の演目から感じたこと、学んだことは何ですか？

命の重さ、大切さです。患者さんの命はその人だけのものではなく、医師や医療従事者は、家族や支えてくれる人の思いも背負わなければならない。そんな将来の自分が負うべき責任も感じました。

— 練習での思い出や苦勞、また役柄を演じるにあたって留意した点を教えてください。

余命半年の患者さんの役をいただきましたが、実際自分が余命半年だったらどんな気持ちで過ごすのか、その病気の人はどんな動きやしぐさをするのか、イメージするのが難しかったです。また、テスト勉強とお稽古の両立が大変でした。

— 他に、木村さんからのメッセージがあれば・・・

初参加でしたので初めは戸惑いや不安で一杯でしたが、本当に参加して良かったと思っています。矢巾町民劇場は、役者さんだけでなくスタッフさん(大道具や照明、音響担当など)も募集しているので、興味がある人は是非どうぞ！

※本学は、歴史資料の提供に協力しました。



余命宣告を受けた青森出身の入院患者として、津軽弁で喋る（頑張る）木村さん（写真左）

本公演の詳細につきましては、
広報やば3月号をご覧ください。



シリーズ 職場めぐり

放射線医学講座

放射線医局は西病棟6階にあります。放射線医学講座の特徴として、放射線画像診断から放射線治療まで先端的な医療機器を駆使しながら全身にわたる幅広い範囲を網羅していることが挙げられ、必然的に多くの診療科との関わりがあります。そのため多くの診療科とのカンファランスが放射線医局で行われています。江原茂教授を筆頭に計19名の医局員で構成されています。放射線診断とIVR、放射線治療や循環器放射線などそれぞれの専門領域に特化して日々の診療・研究・教育に従事しています。悪性腫瘍、循環器疾患や救急疾患など様々な場面で、鍵となる診断や治療に携われることは、我々医局員にとって大きな励みです。他大学と比較して、医局員の数は決して充足しているとは言えませんが、地域に根差した医療の提供と専門医の育成

のため、医局員一同、日々努力を続けて参りたいと思います。

(講師 加藤 健一)



サイクロトロンセンター (高エネルギー医学研究部門)

私達のサイクロトロンセンターは本学の北方17 km、滝沢市留が森にあります。平成2年2月設立、現在のスタッフは5名です。厳しい冬が終われば、春から秋にかけては自然に恵まれまさにこの世の天国、山菜やきのこも敷地内で採り放題、栗、胡桃などもいくらでも拾えます。以前は敷地内の清流で岩魚釣りもできました。皆様も一度遊びに来て下さい。

もちろん(山菜採りばかりではなく)仕事もしています。私達の研究所はPET(陽電子核医学)とPIXE(イオン励起X線分光分析法)の2つの高エネルギー手法を全国の研究者に提供する共同利用施設です。PET検査は週2~3回、PIXE分析は毎日行われ、本学をはじめ日本中の多くの分野の研究者の方々に利用されています。残念ながら当センターは事情により30年度までで閉鎖となりますが、それまでは力いっぱい皆様のお役に立ちたいと思

ます。また、今後もPET・PIXEの灯をどこかで燃やしつづけていと願っています。

(教授 世良 耕一郎)



岩手看護短期大学

岩手看護短期大学は、平成28年4月1日より学校法人岩手女子奨学会から学校法人岩手医科大学に経営が引き継がれました。祖父江学長、酒井副学長の指揮のもと、教員24名と7名の事務員により教育と管理運営が行われております。学生数は現在看護学科と専攻科(地域看護学専攻・助産学専攻)合わせて239名です。講義や演習、実習に関しては岩手医科大学を中心として多くの医育・医療施設のご協力をいただいております。本学は平成28年度より学生の募集を停止しており、平成31年3月の看護学科卒業をもって看護学科は閉科となり、翌32年には専攻科学生の卒業をもって閉学することとなります。教員の所属異動も行われる予定で、閉学前には最小限の教員で学生教育が行われることとなります。このような流れの中で、教職員は学生に有意義な学生生活を送っていただくこと、そして国家試

験に合格していただくことを目標として努力を重ねております。

(事務長 水本 義久)



熊谷 佑子
presents

大学周辺のお店めぐり ～サブール～

私の好きなこと・・・それはパン屋をめぐることです。一歩お店に入った時の焼きたての甘いパンの香りを楽しみながら、フランスパンなどのハード系のパンやフルーツやナッツのたくさん乗ったデニッシュなど、どれにしようかと考えるだけで幸せな気分になります。おいしいパンの情報を聞くと、どんなに遠くても足を運び、旅先でもパンばかり買ってしまふほどです。今回はそんな私のお勧めのお店を紹介したいと思います。

下小路中学校の向かいにある「サブール」という小さなパン屋さんです。母娘お二人でパン作りをされていて、いつも笑顔で迎えてくれるお二人の温かい雰囲気、お店やパンにも表れています。わが家の息子もお二人が大好きで、手紙を書き、折り紙を折って持って行ってしまふほどです。どのパンもとても美味しいのですが、子供

のおすすめは昔ながらのカスタードクリームがたっぷり入ったクリームパンと、野菜の甘みとスパイスの辛さが絶妙にマッチしたカレーパンです。ちなみに私は食パンが大好きで、外はカリッと中はモチモチふわふわの食感がたまりません。どのパンも温かみがあり美味しさが口いっぱいに広がります。美味しいパンと素敵なお二人に会いに、ぜひ足を運んでみてください。



「サブール」

電話：019-621-8348
住所：盛岡市本町通 1-5-36
営業時間：10:00～17:00
(なくなり次第終了)
定休日：月曜日・火曜日



《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰 山尾 寿子
影山 雄太 菊池 初子
松政 正俊 佐々木さき子
齋野 朝幸 佐々木忠司
成田 欣弥 熊谷 佑子
佐藤 仁 畠山 正充
藤本 康之 菅原 侑子
白石 博久 武藤千恵子
藤澤 美穂 高橋 慶
米澤 裕司

編集後記

3月10日に举行された平成28年度卒業式に出席しました。医歯薬3学部にて岩手看護短期大学も加わり、卒業証書・学位記の授与には実に1時間30分を要しました。学部卒業生の多くが、6年前の東日本大震災発災直後の混乱の中で入学してきた事も思い出され、感慨を覚えた次第です。附属病院起工式に引き続き、来たる4月20日にはいよいよ本学創立120周年記念式典が執り行われます。4学部揃っての新たな門出の4月号にバトンタッチです。

(編集委員 白石 博久)

岩手医科大学報 第486号

発行年月日 平成29年3月31日
発行 学校法人岩手医科大学
編集委員長 小川 彰
編集 岩手医科大学報編集委員会
事務局 企画部 企画調整課
盛岡市内丸19-1
TEL. 019-651-5111 (内線7023)
FAX. 019-624-1231
E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp

スポット医学講座

臨床遺伝学科 教授 福島 明宗



家系図を活用してみましよう

一般診療では必ず患者およびその家族の家族歴・既往歴を聴取しますが、遺伝医療では家系情報を聴取し医療用家系図を作成します。医療用家系図は遺伝性疾患の 1) 診断、2) 予後、3) 診療方針、4) 家族への情報提供などに活用されとても重要な医療情報です。ところがこの「医療用家系図」を作成したことがある医療従事者は案外少ないかもしれません。その理由として 1) 遺伝性疾患を担当していないので家系図作成は必要ではない、2) 家系図の書き方がよくわからないし第一作成が面倒だ、などが主に挙げられます。まず 1) に関してですが、単一遺伝子疾患のみならず生活習慣病を始めとする多くの多因子疾患には、環境要因に加え遺伝的要因の関与があるというのが近年の常識です(図1)。従ってこれら多因子疾患の診療においても、これからは家系図作成が必須と言えます。従来、遺伝的要素の関与が全く考えられていなかった疾患が、詳細な家系情報より遺伝性疾患であることが判明し、さらに原因遺伝子が同定されサーベイランスや治療法の開発までに至ったケースもあります。このように地道に家系図を作成するだけで、新たな医療の展開が可能になるかもしれません。次に 2) に関してですが、これまで家系図を作成するにはフリーハンドで行わねばならず、かなりの手間を要しました。また医療用家系図の作成に必要な世界共通の決まり事(標準的記載方法)を学習する機会はほとんどありませんでした。そこで我々は専門的知識がなくてもPCで自動的に医療用家系図を作成するソフトウェア「f-tree」を開発しました。「f-tree」の一部はフリーウェアで<http://iwate-megabank.org/genetic/>から

ダウンロードが可能です。また解説書(図2)もありますので併せてご利用ください。これからの診療に家系図をどんどん活用していきましょう。

図1

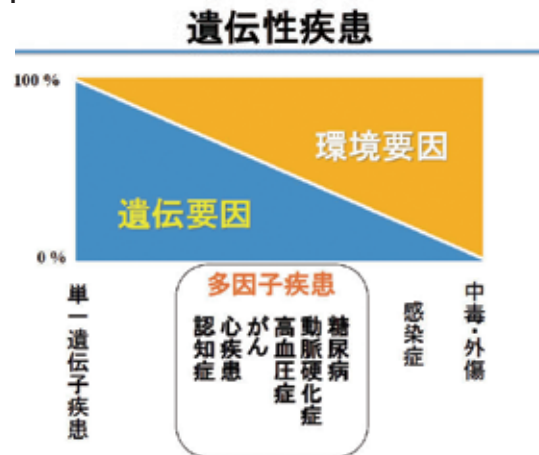


図2

CD-ROM 別付

監修 福島明宗 岩手医科大学医学部臨床遺伝学科 教授
編集 徳富智明 岩手医科大学医学部臨床遺伝学科 准教授

自動家系図作成ソフト
「f-tree」で学ぶ臨床遺伝学
～遺伝診療からゲノムコホート研究まで～

今までの苦労は、
なかったことにしてください。

中外医学社

従来の、多くの労力と時間を要した家系図の作成をぐっと身近にするフリーソフト「f-tree」。ソフト本体を収録したCD-ROMも付いて、すぐに使えます。

推薦の言葉
正確な家系図は遺伝性疾患の診療やカウンセリングに
なくてはならないものです。本書と医療用家系図の自動作
成ソフト「f-tree」をぜひ臨床遺伝学の現場で活用して
ください。
——北海道医科大学学長 新川諒夫

きょうだい

※みんなの笑顔